

バイオセラピー学発展実験・実習 (4 単位)

担当者氏名 増田宏司・土田あさみ

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

バイオセラピー学専攻の人間動物関係学分野の内容を理解するため、授業担当教員の指導下でバイオセラピー学における課題について、それらを解決するための実践的手法を習得する。特に動物との共生に関わる課題を解決するための手法を身に付け、動物と人の豊かな生活の構築について実践的な活躍ができる人材となる基盤を構築することを目的とする。実験・実習のテーマ設定は、修士論文に直接関係するものだけでなく研究者および専門性の高い職業人となる目的を果たす内容とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

伴侶動物 _____ 伴侶動物との共生 _____ 伴侶動物の適正管理 _____ 伴侶動物の衛生管理 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の 内容と分量
1	ガイダンス	(1 回) 実験実習の目的と概要を把握する。(2 回) 動物との共生課題抽出のための背景について調査する。	(全体を通して) 授業担当者と十分に打ち合わせておくこと。(1~4
2	課題設定	(3 回) 抽出した課題について、検討すべき内容を整理する。(4, 5 回) 取り扱う検討内容を選択し、検討法を決定する。(6, 7 回) 検討内容に対処すべき実験手技と解析法について考える。(8, 9 回) 実験の準備とセッティングおよび実験を行い、データを取得する。(10, 11 回) データを集計し、検定を施す。(12 回) 検定結果を受け、作図および作表する。(13 回) 取りまとめたデータから適宜文献を参考にしつつ、理論的考察に結び付ける。(14 回) 課題設定から結果考察までの部分を報告書の形にまとめる。(15 回) 報告書に基づき、内容全体をプレゼンテーションの形で報告し、討論および総括を行う。	回) 文献を調査し、下調べを十分に行っておくこと。(5~9 回) 実験手技と器具の使用法について調べておくこと。(10~12 回) 検定法の種類と特徴について調べておくこと。(13~14 回) 報告書を作成するに当たり、参考文献を読み込んでおくこと。(15 回) 報告書を完成させておくこと。また、討論での指摘事項を参考に、報告書を修正すること。
3	テーマの設定		
4	検討内容		
5	調査法の検討		
6	実験手法の検討		
7	解析手法の検討		
8	実験手法の修得 I		
9	実験手法の修得 II		
10	結果のとりまとめ		
11	結果の統計解析法		
12	作図および作表		
13	検討結果の考察		
14	全体の取りまとめ方		
15	成果報告および総括		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

その都度紹介する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

その都度紹介する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

指導、検討のやり取りの記録および報告書で評価する。

◆オフィスアワー

火曜日 16:30～17:30（土田）、木曜日 15：00～16：00（増田）、研究室にて質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

オフィスアワー以外の時間帯で質問がある場合には事前に連絡すること。
